

外部アンケートの工夫（京都市）

学校の魅力と課題を発見するための「ニーズ調査型」アンケートを実施し、学校評価支援システムを活用して簡単で分かりやすい分析結果を表示している。重要度と実現度の関係を相対的に捉えることで、教職員や保護者の意識のずれや学校の魅力、課題を焦点化し分析に役立たせている。

見える評価・生きる評価・活かせる評価を!

魅力と課題を発見する「ニーズ調査型」アンケート手法・分析手法を推奨しています。

「重要度」と「実現度」を問う「ニーズ調査型」アンケートの活用により、かんたん分析データベースで、それぞれを分かりやすく数値化。

学校評価支援システム（ニーズ調査型アンケート）の活用で、自動的に分かりやすい分析結果を表示!!

◆分析結果

項目	▲重要度▼	▲実現度▼	▲ニーズ度▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	66	39	271
子どもが丈夫な体をつくること	66	44	238
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	67	46	229
子どもが他人を思いやり、親切にすること			225
子どもが楽しく学校に通っていること			184
子どもが将来の夢や希望について考えること	60	41	245
子どもが家庭で習慣的な手洗いなどの役割を持つこと	63	38	262
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	59	51	174
学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	69	53	184
学校が、人権を大切にした教育活動を行うこと	69	56	167
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	65	48	207
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること	61	52	171

は、重要度が
高い項目(最高7.0)

は、実現度が
低い項目(最高7.0)

は重要度が
高く、実現度が
低い項目(25.0
以上)。この項目
を重点課題に位
置付けるなど、
回答に表れた願
いを学校の取組
に反映させるこ
とができます。

重要度と実現度を軸として、評価結果を相対化した分布表を作成

◆分布

重要度	実現度	項目	自校の魅力	自校の課題
高	高	子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	子どもが楽しく学校に通っていること	子どもが適切な言葉づかいをすること
	低	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが他人を思いやり、親切にすること	子どもが適切な言葉づかいをすること
中	高	子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	子どもが楽しく学校に通っていること	子どもが適切な言葉づかいをすること
	低	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが他人を思いやり、親切にすること	子どもが適切な言葉づかいをすること
低	高	子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	子どもが楽しく学校に通っていること	子どもが適切な言葉づかいをすること
	低	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが他人を思いやり、親切にすること	子どもが適切な言葉づかいをすること

重要度と実現度の関係を相対的にとらえることで、教職員や保護者の意識のずれや学校の魅力、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。



Point

学校評価の結果が見えること、生きること、活かせることが重要です。新しい学校評価支援システムの活用で、自校の魅力と課題を焦点化し、絞り込んだ分析と改善策の提示が可能になります。

情報発信や意見交換等の工夫（愛知県高浜市）

高浜市立高浜中学校では、校長が保護者・地域住民と気軽に気楽に話し合える場を設定し、公式的な場やアンケート以外の方法での意見交換も大切にしている。学校の取組や保護者・地域との連携の様子は、リーフレットや各種たよりのほか、ホームページ上の学校のブログ、生徒会のブログ、PTAのブログで共有している。

高浜市立高浜中学校では、学校の目標、計画は学校関係者評価委員だけではなく、全ての保護者に情報提供するようにしている。冷蔵庫に貼れる大きさのリーフレットに学校の目標や目指す生徒像、生徒の宣言を記述し、全生徒に配布することで、学校と生徒、保護者の共通理解を図っている。

また、同校では、毎月1回「共育を語ろう会」と称し、保護者、地域住民の誰が来てもよい意見交換会を開いている。堅苦しい場でなく、井戸端会議的なものを目指しており、校長がその時々に応じて、学力、いじめ、学校の安全、進路などの話題を提供して、対話している。個人情報に留意したうえで、校長にとっては公式な場では言いにくいことも意見交換できる場となっている。



「共育を語ろう会」の様子

加えて、「校内見守りたい（隊）」という保護者等が自由参加型で授業参観できる機会を年7～8回設けている。

こうした目標共有や情報共有の取組は、学校の自己評価にも活かされていることはもちろん、学校関係者評価での議論にも役立っている。学校関係者評価は、学校に建設的な意見が言える人を委員とし、1年で交替するPTAの現会長だけではなく、歴代のPTA会長、地元企業経営者、小学校と高校の教員、有識者を委員としている。

教職員が頑張っている姿を見た保護者のアイディアで保護者と教職員が参加した奉仕活動が始まるなど、日常的な情報共有が地域に開かれた学校づくりにつながりつつある。

こうした連携協力の取組や生徒の日常的な姿は、ホームページ上でも公開されている。保護者によるPTAブログ、生徒による生徒会ブログもある。保護者の多くは「生徒の毎日の様子が知りたい」と思っている。こうした思いに対応した学校と保護者が連携した取組である。

学校関係者評価委員を対象とした研修用DVDの作成（茨城県取手市）

学校関係者評価委員と学校評価の必要性や目的、方法等を共有することを目的に研修用DVDを作成し、各学校で学校関係者評価委員研修会の開催時に活用している。

平成20年度 取手市「学校評価の充実・改善」のための実践研究

学校関係者評価委員研修用DVDの内容

- ① 学校評価全般について（約5分）
- ② 学校関係者評価委員の役割について（約5分）
一年間スケジュールに沿って－
- ③ 専門家（筑波大・窪田眞二先生）から
学校関係者評価委員へのメッセージ（約1分）

